

言葉がかなりしゃべれるようになった幼児に、本格的に漢字学習をさせる効果的な方法とはどのようなやり方でしょう。

まず、名刺やカルタ程度の大きさのカードを用意します。そこに日常生活の中で幼児の目に触れるものの名前を漢字で書いて貼っておくのです。机、椅子、冷蔵庫、花瓶……何でも貼っておけば、幼児は興味を示してきます。

そうすると必ず子どもは質問して来ます。

「これ、なあに？」

そうしたら読んで教えてやればいいのです。より興味を引くため、子どもの好きなきれいな色のペンを使って書いたり、色とりどりの紙で漢字カードをつくったりすることも一つの方法です。

字はなるべく太く大きく書いたほうがいいでしょう。線が細いとはっきりしませんから、カードにふさわしい大きさを書きます。その際に筆を使うと、字の縦横の大きさにおのずから強弱がつかますから、よりわかりやすいと思います。

筆で書くのが一番いいのですが、もちろんマジックでもかまいません。ただし、その場合は、筆で書かれた字を手本にするといいと思います。

まずは身近なものに貼って教えますが、犬や猫を飼っていたとしても、生き物にカードを貼るわけにはいきません。また太陽とか月とか風といったものにもカードは貼れません。

こういうときは絵本を使います。絵本を利用すれば、動物でも山や川でも森や星とかでも教えることができます。こうすればほとんどすべてのものを教えることができますでしょう。

市販されている幼児絵本は、ほとんどがかな書きですから、この上に隠れるように紙を貼って漢字を書き入れるのがいいでしょう。

少なくとも漢字を100字くらい覚えさせないうちはかなを教えるのはお勧めできません。“かな”は最初は目に触れさせないようにします。

絵本で教えることも必要ですが、なるべく本物を見せるべきでしょう。動物などは、たとえば猿でも象でも、動物園に行って本物を見せる努力が親には必要です。一度でも本物を見ていれば、絵本を見せたときの反応も違ってきます。同じ猿という言葉でも、実際に見れば、言葉が生きたものになってくるのです。